

平成30年度 教員免許状更新講習シラバス

■講習名 【選択必修】情報化社会に対応する情報教育のあり方とICT教育の可能性

■時間数 6時間

■受講対象者 小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭

■担当講師 西田 悦雄（兵庫大学現代ビジネス学部准教授）
高野 敦子（兵庫大学生涯福祉学部教授）

■評価方法 3講習の筆記・実技試験の成績により評価します。各講習の合計点が100点満点となる成績評価を行い、60点以上を合格とし、履修認定を行います。

■使用する教材等 必要に応じて資料を配付します。

■講習の概要

本講習では、「プログラミング体験に適した処理系」「データに基づく問題解決力の養成」「情報モラル（情報倫理）の教育」について講義する。講義・演習を通して、情報教育についての理解を深めるとともに、教育現場における情報教育のあり方、可能性について考える。

講習Ⅰ プログラミング体験に適した処理系

新しい学習指導要領で示された「プログラミング的思考」を含めたプログラミング教育の指導力向上のを目指すとともに、コンピュータやプログラミング環境の変化やサンプルプログラムなど使った講義・演習です。それらを活用しながらプログラミング的思考を取り入れた授業展開を考える機会とします。

■成績評価の観点

受講中にコーディングしたプログラムでの処理手順・記述の適切さとプログラムによる動作を総合的に判定します。

〔担当：西田 悦雄〕

講習Ⅱ 情報モラル（情報倫理）の教育

情報通信技術や情報サービスなどの普及により、我々にとってインターネットは身近になっています。特に児童・生徒が情報モラルに関するトラブルや事件も増加傾向にあります。本講習では、子ども達を取り巻く情報社会の光と影を説明し、メディア教育の観点から情報モラル指導のあり方について考えます。

■成績評価の観点

情報メディアの特性を踏まえた情報モラル指導について考察を評価します。

〔担当：西田 悦雄〕

講習Ⅲ データに基づく問題解決力の養成

小・中・高等学校を通じて、データに基づく問題解決力の養成は情報教育における重要課題です。本講習では、地域経済分析システムRESASを具体例として取り上げ、生徒自身にデータに基づく問題解決プロセスを体験させる学習の意義と効果的な指導方法について考えます。

■成績評価の観点

データに基づく問題解決力養成の必要性及び養成する際の指導方法に対する理解度を評価します。

〔担当：高野 敦子〕